



1. 林 美英 編著：常見天牛野外識別手冊
[重慶大学出版社]

(Meiying Lin, 2015: A photographic guide to longicorn beetles of China)

変形B6判ソフトカバー—227 pp.

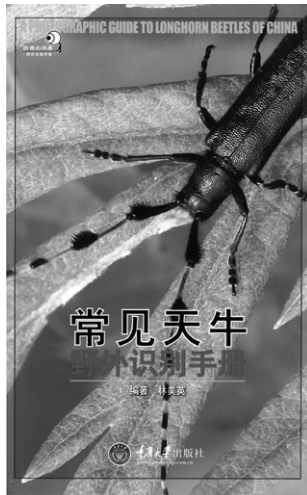
2. 林 美英 編著：国家動物博物館館藏天牛模式標本図冊 [河南科学技術出版社]

(Meiying Lin, 2015: Album of type specimens of longhorn beetles deposited in National Zoological Museum of China)

B5判ハードカバー—374 pp.

北京中国科学院動物研究所の新進気鋭の女性カミキリムシ研究者、林美英博士の著書2冊の紹介である。彼女は広州の中山大学出身で、中国科学院博士課程を経て、現在同研究所の国家動物博物館昆虫分館助理研究員をとして勤めている。カミキリムシの、とくにトホシカミキリ族 (Saperdini) やホソカミキリ科 (Distenidae) の専門家として著名である。

「1」の常見天牛野外識別手冊は、一般向けのいわば生態図鑑で、前段の「入門知識」と大部分の「種類識別」に分れている。紹介されているおおよそ300種はすべて野外の生態写真で、「常見」と言うタイトルとは裏



腹に、これまで日本人には馴染みが薄かった四川、雲南、西藏などの沢山の珍種も多数紹介されていて、見ているだけでわくわくしてしまう。解説は中国語で、簡体字に慣れない我々には難解であるが、特筆すべきは中国名に並記されている学名の正確さである。彼女がパリの自然史博物館留学中に培った人脈を活かして、多くの専門家が同定を確認している。写真を提供している虫屋さんの数が多いのも驚きで、近年の中国の虫屋事情も垣間見える好著である。本書は「昆虫文献六本脚」で入手出来る。

「2」の模式標本図冊は、科学院動物博物館所蔵のカミキリムシのホロタイプ179種を含む404個体が、標本データとともに鮮やかなカラー写真で紹介されている。中でもL. Gressittの歴史的標本や、蒲富基、蔣書楠ら、一世代前の中国カミキリ界の重鎮の標本等、これまでは図が付されていなかったり、不鮮明な白黒写真でしか見られなかったタイプ標本が一覧出来るのは素晴らしい。また、林博士自身が記載した種のタイプ標本の他、

C. Holzschuh や M. Danilevsky らが記載した中国産種の、正または副模式標本も収蔵されており、これらも豊富に図示されている。アマチュアの虫屋さんには物足りないかもしれないが、研究者にとっては無くてはならない重要な文献である。

(大林延夫)

